

2019年06月21日 8面

文字サイズ 小 中 **大** ブックマーク  印刷 

安全大会／大林道路北信越支店／三つの重点施策の実践を



大林道路北信越支店と同支店安全衛生協力会は18日、新潟市中央区の東映ホテルで2019年度安全大会を開き、参加者全員が労働災害撲滅に向け決意を新たにしました。=写真。

大会には支店幹部と協力会社の代表など約70人が参加した。塚本隆支店長は、19年度の支店の安全スローガンは「その場の危険を見過ごさず声かけ手をかけゼロ災害」であることを説明した上で、一声掛け運動の実施、バックホウによる接触事故を起こさない、作業手順の確認により危険の芽を摘む－の三つを重点施策に掲げていることを説明し、実践を求めた。続けて「協力会社の皆さん、無事故無災害を目指して今年も一丸となって安全活動に取り組みましょう」と呼び掛けた。

田中敏夫支店安全衛生協力会会長（清野砂利採取社長）のあいさつ、大林道路の齊藤克巳代表取締役専務執行役員による本年度の安全衛生活動の説明の後、安全衛生優良業者表彰式が行われた。

[閉じる](#)

記事ID：3201906210812

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます